

予測分析サービス「T-PAS」

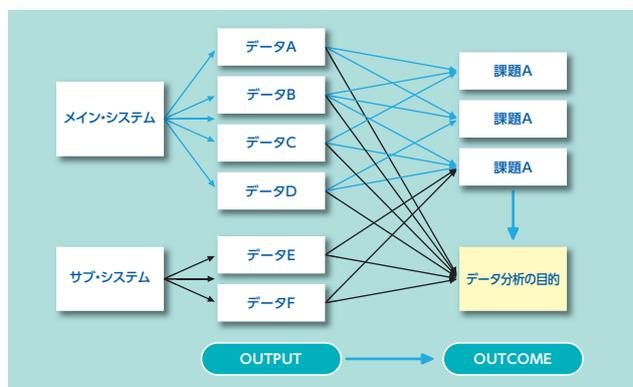
データを収集することが目的になっていませんか？

データ分析において陥りがちなのが、データ分析を経営・マーケティングに活用しようと考え、結果として分析のためのデータを収集することに主眼がおかれ、データ分析のために課題を探すといた、そもその目的が違った方向に向いてしまい、結果として莫大なコストと労力をかけても結果が出せず、目的と手法が逆転してしまうことです。

大きな目的を達成するためには！？ まずは Small Start !

ビッグデータは、Volume(データ量)・Velocity(データ更新)・Variety(データ種類)が特徴です。しかしながらビッグデータの収集するには、大きなコストがかかります。まずは目的(課題)を正しく見極め、解決すべき課題のために必要なデータは何であるか!?!を抽出します。それはビッグデータである必要はなく、小さくても分析するにあたって正しいデータであれば、成果は出ます。

T-PASサービスは、お客様とともに成長していくサービスです。



業務現場の直接の声を聞いていますか？

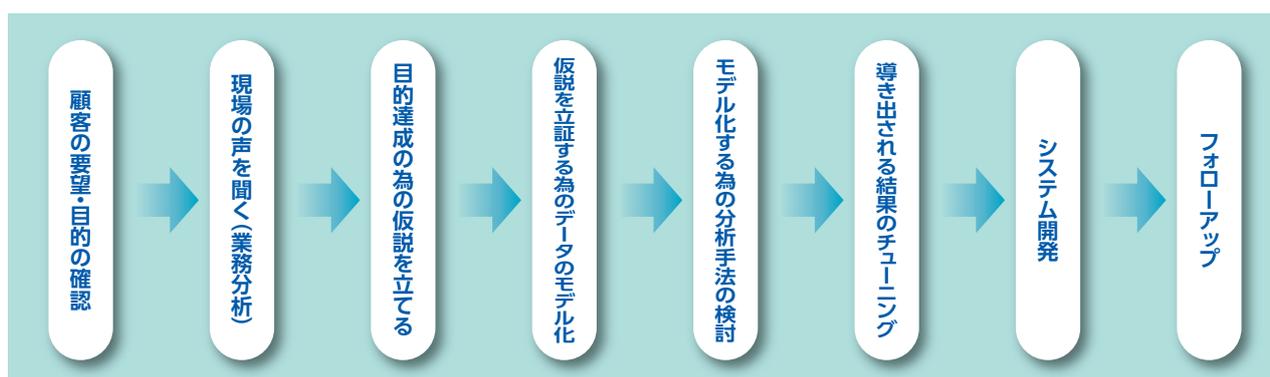
データとして残っているのは、業務の現場の一部でしかありません。すべてが定量的なデータとして保管されているとは限らず、且つ定性的なデータ、例えば日報であったり営業報告書であったりするものも人によって表現の違いがあるかもしれません。

我々は、通常システム開発の要件定義作業と同様に、業務の各現場の声を聞くことから始めます。

データ分析の結果を活用するのは、業務の現場の皆さんです。それによって業務の現場のみなさんが活用し易い生きたデータ分析を可能にします。

OUTPUT(データ分析)で終わることなくOUTCOME(成果)を得ることを目指します

予測分析サービス「T-PAS」の流れ

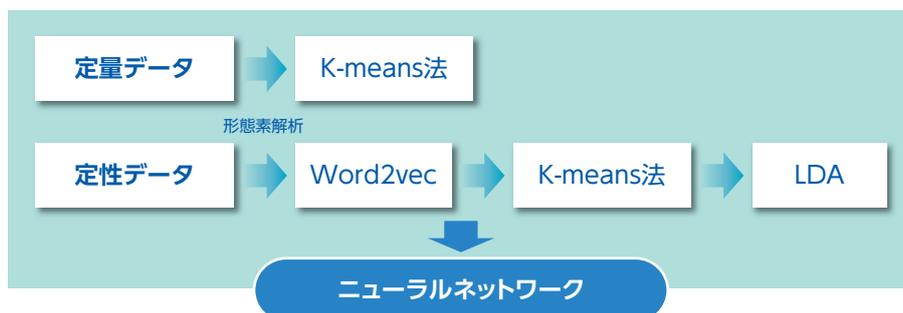


予測分析サービス「T-PAS」

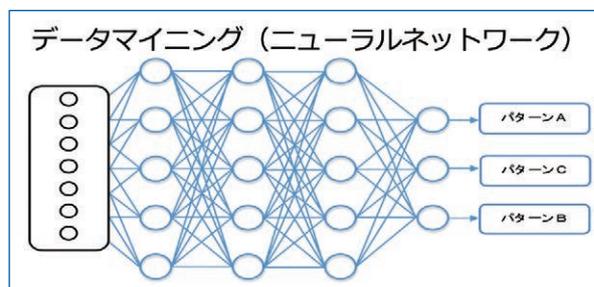
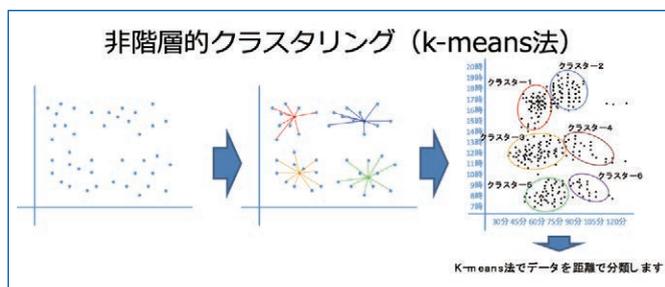
T-PAS (MediaTrust Predictive Analysis Service)

T-PAS (MediaTrust Predictive Analysis Service)は、武蔵野大学データサイエンス学部と連携し、統計分析・機械学習・ニューラルネットワークを組み合わせ、企業の営業企画・経営企画・新規事業部門へ未来創造のためのシステム実装を提供します。

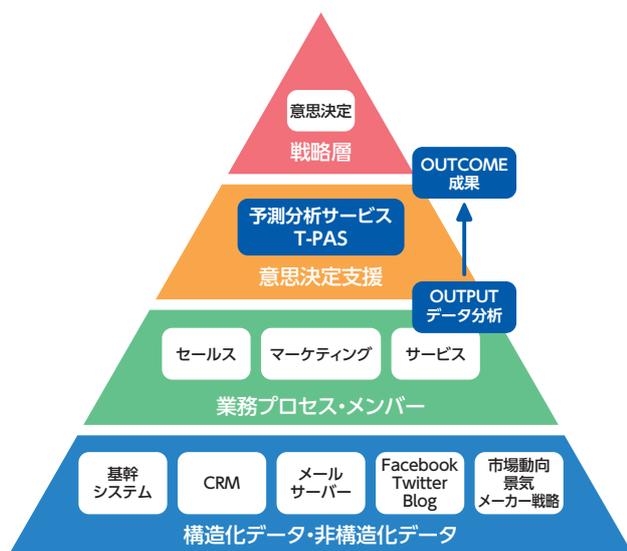
T-PASの分析手法（一例）



定性データをWord2vecにてベクトル化して、k-means法にてクラスタリングし、その結果を解析するためLDAを使用します。
定量データ・定性データのクラスタリングの結果をニューラルネットワークでパターン化します。



意思決定支援システム(DSS)としてT-PAS



経営者や管理者が情報システムに蓄積された情報を活用して意思決定に役立てようとする「意思決定支援システム(DSS)」は、今までは

1. 基幹システムでデータを蓄積し、
2. データを収集(ETL)、
3. BIツールなどOLAP等で分析することになります。

T-PASサービスを活用すれば、BIツールを駆使して経営者が意思決定していたものを、自動化しパターン化でき、BIツールでは分析できない定性データ(社内文章、SNSでの自社へのつぶやき、政治的背景等々)、より精度の高い意思決定のツールとしてご活用頂くことが可能です。

また、年数を重ねデータを蓄積していくことにより、AIエンジンを駆使して、データ分析の予測精度を飛躍的に向上させることも可能です。